

ソ連の1964年版「世界自然地理地図帳」

かねてより前評判の高かった「世界自然地理地図帳」がソ連科学アカデミーとソ連国家地質委員会測地・製図総局とによって出版された。地質調査所図書室に届けられた実物を早速手にし、ページをめくりながらそのすばらしいできばえにまず感嘆させられた。この地図帳は世界各大陸およびソ連邦の地勢、地質、地質構造、気候、水理、土壌、植物区、動物区など広範な自然地理科学に関する320葉の多色刷り地図からなり、31×50cmの大判で250ページの諸図類のほか、巻末に48ページの解説が載っている。

序文で編集委員会々長のアカデミー会員イ・ペ・ゲラーシモフ（土壌地理学者）はこの出版の目的は、最新の自然地理学的資料と今日の地球科学の理論にもとづいて可能な限りじゅうぶんで正確な自然界の地図を提供することだとのべているが、実際その科学的 content と深さの点で先例のない充実したものとなっている。既刊のこの種の地図帳としては、わずかにイギリスの「オックスフォード版地域経済地図」シリーズがあげられる（世界をソ連・東ヨーロッパ・中近東・北アフリカ・アフリカ・カナダ・アメリカ合衆国・ヨーロッパ・ラテンアメリカ・インド・中国・日本および東南アジア・オーストラリア・ニュージーランドの8地域に分け

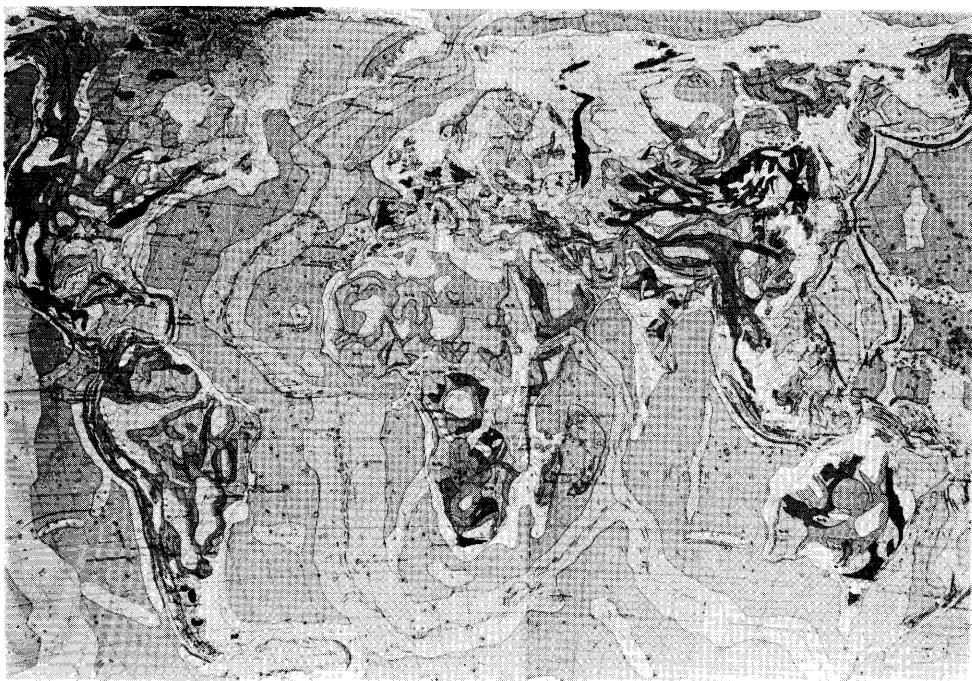
盛谷 智之

それぞれについて自然地理、産業、交通などの図をまとめたもので、一部が既刊）。しかし、このシリーズはまだ世界全体を網羅するまでに至っておらず、この点においてもソ連の「世界自然地理地図帳」は北極・南極地方を含む地球の表面全体におよび、これが1冊の本としてまとめられ、まったく画期的なものといえる。今後これが自然地理科学に関係する広い範囲の人たちの基本的な文献となることが予想されるので、内容を少し詳しく紹介してみよう。

この地図帳にはソ連の既刊の地図を再編集したものと新しく作成されたものがおさめられているが、個々の図はそれぞれつぎに上げるようなソ連の最高研究機関が担当し、その編集陣の規模の大きさ、組織力の強さがうかがえる。ソ連科学アカデミー（地理研究所、地質研究所、植物研究所、動物研究所、海洋研究所、鉱床岩石鉱物地球化学研究所、水理化学研究所、音響測深研究所）、グルジア・ソビエト共和国科学アカデミー（地理研究所）、ソ連国家地質委員会測地・製図総局（測地・空中写真・製図中央研究所、科学地図編集部）と全邦地質調査研究所、ソ連閣僚会議付属大気水象総局（地球物理観測所）、国立海洋研究所、国立水理研究所、気象調査研究所）

ソ連上級中級特別教育省（モスクワ大学、レニングラード大学および中央アジア大学の各地理学部）、ソ連農業省（付属ドクチャーエフ土壌研究所）など。

内容は大きくは3部からなり、第1部 世界全体、北極地方、南極地方（縮尺 $1/6000$ 万～ $1/25000$ 万）、第2部 ヨーロッパ、アジア、アフリカ、北



世界の地質構造図

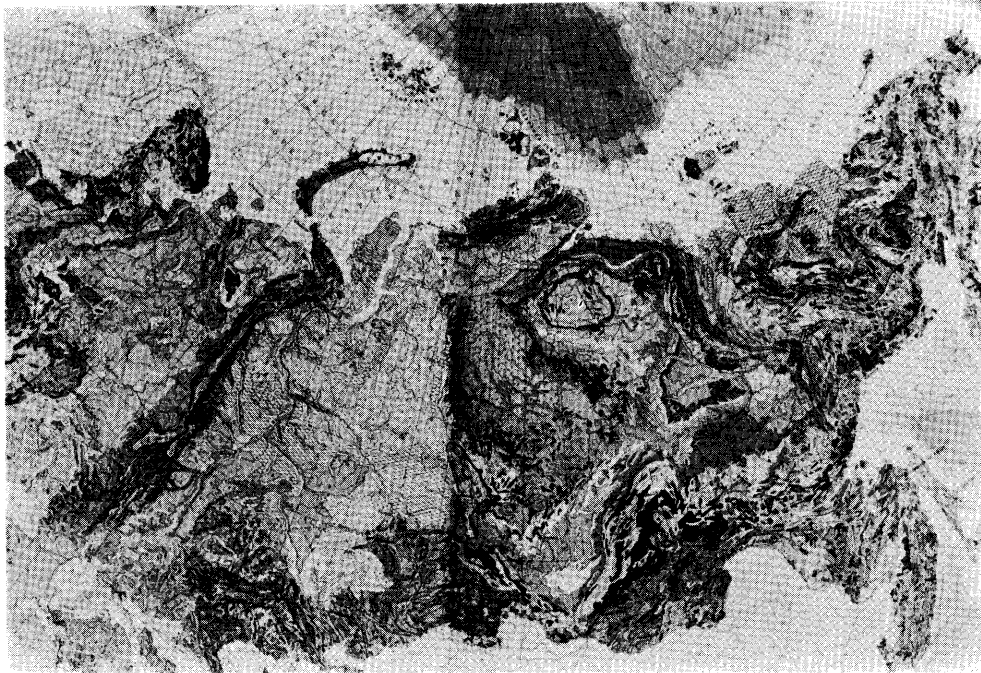
アメリカ 南アメリカおよびオーストラリア (1/1000万～1/4000万) 第3部 ソ連邦 (1/1500万～1/3500万) の各種の地図が載っている。その項目は つぎのような多くにおよぶ。

第1部：世界地勢図 北極と南極地方の地勢図 北極と南極地方の地質構造 世界の地質構造 地質図 地震・火山分布 第四紀地質図 底質分布 地形 気候帯 気温・降水量の年間変化 総日射量 蒸発量 季節的輻射量差 蒸発による熱消費量 気圏からの乱流性熱交換 気温 気温の平均緯度からの偏差 気温の年間振幅 無霜期のはじまり 無霜期の終り 無霜期の長さ 季節ごとの非熱帯緯度地方における大気の流れ 大気圧と風向 降水量 表層海水の温度 表層海水の含塩度 表層海水の密度 海流 深度400 mにおける海水の温度と含塩度 海の水理学的断面 湖沼 河川の季節的変化型 河水流量 土壌図 農業地密度分布 植物地理区 植物帯 海の動物区 生物の分布と移動 陸地自然景観の型 陸地自然地理区総括図。

第2部：ヨーロッパ(地勢図 地質構造図 鉱産図 地質図 第四紀地質図 地形図 土壌図 降水量 相対湿度の年間変化 植物帯 植物分布区 動物分布区 自然地理区)。以下 アジア アフリカ 北アメリカ 南アメリカ オーストラリアについて同じ組み合わせの図が示されている。

第3部：ソ連邦の地図には 第1 2部にあげた種類のものほとんどが含まれるほか 水系 地下水 水理地質 地下水の地球化学 地球化学的景観図など独自の図が加えられている。

つぎに地質関係の諸図にみられる特長をあげてみよう **地質図**は全邦地質調査研究所の編集で 地層 貫入岩体の年代区分別の普通の表現法がとられているほか 顕著なものについては海成 陸成 風成 湖成 火山源(酸性・中性・塩基性) トラップなど成因的区分もなされている。多色刷りの鮮明なもので小縮尺ながら地質を読みとれるように編まれている。 **地質構造図**は科学アカデミー地質研究所が主体となって作成し 解説はエム・ヴェ・ムラトフ。この図は陸域だけでなく大洋・海洋底をも含む地球の表面全体の地質構造発達史の観点から描かれている。先カンブリアの地層からなる古期台地 カレドニア ヘルシニアンおよびアルプスの各造山帯や これに対応する台地地域がともに示され 特長的な火成岩類や構造線が加えられている。鉱産図は全邦地質調査研究所が編集している。地質構造区分がなされた基図上に 黒色金属 有色金属 稀金属 貴金属 非金属 燃料資源などを色わけと鉱産名で示し それぞれが記号で岩漿性 ペグマタイト性 後期岩漿性 風化残留性 漂砂 堆積性 変成 ガス・石油など成因型がわかるようになっている。 **地震・火山分布図**は測地・製図総局科学地図編集部によるもので これらの分布が地球表面の安定地塊 造山帯 大裂線 海底山脈

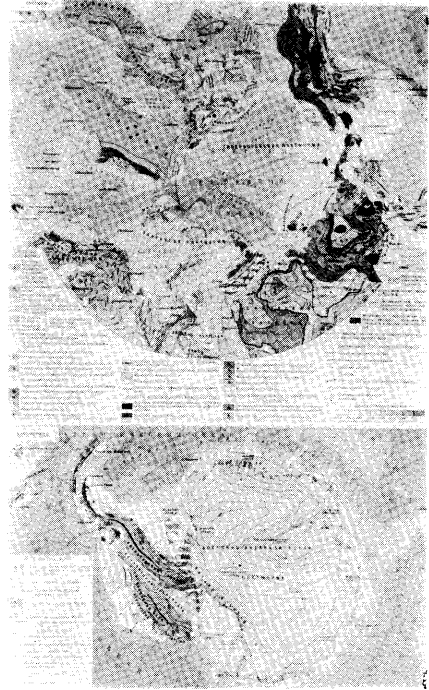


安山岩線などと関連させて示してある。 **第四紀地質図**は全邦地質調査研究所の編集で 沖積 洪積 海成 湖成 河成 風成 氷河 火山性 崩壊性などの堆積物を色わけし これに各氷期の氷河最大分布限界線 現在の氷河 ラテライト分布地域などが示される。 **世界底質分布図**は科学アカデミー

ソ 連 の 地 質 図

海洋研究所が編集し 現在のまだ限られた資料であるが 気候(緯度) 海深 陸地からの距離 火山帯地域であることなどによる底質の種類と 分布の規則性を示す試みがなされている。底質の種類は 礫 砂などの漸海性堆積物 サンゴ 珩藻 有孔虫 放射虫などからなる生物源堆積物およびマンガンやリンのノジュール 海緑石のような化学源堆積物である。なお造礁性サンゴの分布限界線も示されている。目新しいものの一つに **ソ連邦地球化学的景観図**がある。これはソ連で発展した地球化学の1分野で 景観内における化学元素の転移を研究する景観地球化学の成果である。植物帯 地質化学的・機械的風化状況 土壌・風化殻中における水の循環などが総合された景観図上に それぞれの地域に特有な典型元素が示され その説明はア・イ・ペレリマン(景観地球化学・地質学者)が行なっている。

以上にあげたほか 地形 土壌 水など地質に関連した興味ある図は多く 関心をおもちの方は一度実物をみられるようおすすめする。最近 地球の科学は著しい進歩をとげつつあるが このたびこのような広範な分野を含む基礎的な資料が提供されたことは 非常に有意義であろう。この地図帳は自然地理学に関する広い範囲の研究者 教師 専門家 学生などに役立つ利用されるとおもわれる。ただ専門用語の英訳がなく 国粹主義かどうかはわからないが 説明はすべて日本にはまだなじみの薄いロシア語一本槍であること 索引が無いことなどが全世界の利用者を対象とした内容をもつ科学書

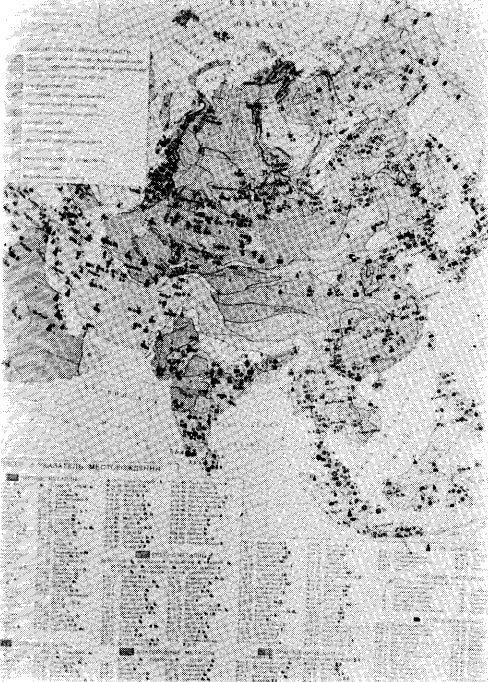


北極・南極地方の地質構造図

であるだけに惜まれる。またこれだけの豪華版であるから 値段の方も18,900円となるのもやむをえまい。零細な研究者個人のみどころにはこたえる額であり 図書室や図書館で備えてほしい本である。

(写真はいずれも同地図帳より)

(筆者は地質部)



アジアの鉱産図



北アメリカの第四紀地質図